

13 重要古語

□□①

いみじ【程度が甚だしい・ひどく悲しい・大

変恐ろしい】

【用例】御心地かきくらし、いみじく堪へ難がたければ（お心は悲しみにくれて、ひどく悲しく

て堪えられるものではなかったので）

□□②

つきづきし【似つかわしい・ふさわしい】

（源氏物語）

【用例】さらでもいと寒きに、火など急ぎおこ

して、炭持て渡るも、いとつきづきし（そう

でなくてもたいそう寒いときに、火などを急

いでおこして、炭を持って通つていくのも、

たいへん似つかわしい）

（枕草子）

□□③

【用例】冬はつとめて。雪の降りたるはいふべ

きにもあらず（冬は早朝。雪が降っているの

は言うまでもない）

（枕草子）

□□④

つれづれなり【することがなく退屈なさま・

手持ちぶさた】

【用例】つれづれなるままに、日暮らし、硯すずりに

むかひて（することがなく退屈であるのに任

せて、一日中、硯に向かいながら）

□□⑤

ほい【本来の意志・もとの望み】

【用例】ゆかしかりしかど、神へ参るこそほい

なれと思ひて、山までは見ず（興味はありま

したけれど、神に参るのがもとの望みな

のだと思つて、山までは見ませんでした）

（徒然草）

やむごとなし【高貴である・格別である・捨

ておかれない】

【用例】かくやむごとなくおはします殿の、貫つら

之ゆきのぬしが家におはしましたりしこそ（この

ように高貴な身分の殿が、貫之殿の家にい

らっしゃったことこそ）

（大鏡）

□
□
⑦

ゆゆし

【すばらしい・甚だしい・忌まわしい】

【用例】 舍人^{とねり}など給^{たま}はるきははゆゆしと見ゆ

(普通の貴族も、舍人など賜るほどの身分の方は、すばらしく見える) (徒然草)

□
□
⑧

あさまし 【(良い意味でも悪い意味でも) 驚

きあきれるばかりである・(悪い意味で) お話にならない】

【用例】 このゐたる犬のふるひわななきて、涙

をただおとしにおとすに、いとあさまし (こ

のうづくまっていた犬がぶる震えて、涙をただ落とすに落とすので、ほんとうに驚き

あきれるばかりだ) (枕草子)

□
□
⑨

あはれなり 【しみみと感動する・しみみ

と情趣が深い】

【用例】 野分^{のわき}のまたの日こそ、いみじうあはれ

にをかしかれ (台風の翌日はたいそうしみじ

みと情趣が深い) (枕草子^{まくらぐさし})

□
□
⑩

あやし

(怪^{あや}し・奇^{あや}し) 【不思議だ・神秘的だ】

【用例】 風雲の中に旅寝することあやしきまで

妙^たなる心地はせらるれ (大自然の中で旅寝をするのは不思議なほどすばらしい気分にするものだ) (奥^{おく}の細道^{ほそみち})

□
□
⑪

(賤^{あや}し) 【見苦しい・身分が低い】

【用例】 あないみじや。いとあやしきさまを、

人や見つらむ (まあ大変なこと。ひどく見苦しいさまを人が見てしまっているだろうか) (源氏物語^{げんじ})

□
□
⑫

ありがたし 【めったにない・立派だ】

【用例】 ありがたきもの。舅^{しゅう}にほめらるる婿

(めったにないもの。舅にほめられる婿) (枕草子)

□□
⑫

うつくし【いとしい・かわいらしい】

【用例】 おほきにはあらぬ殿上わらはの、さうぞき立てられてありくもうつくし（体のそっくりで大きい殿上童が、立派な着物を着せられて歩いてゐるのもかわいらしい）

（枕草子）

□□
⑬

かなし

（愛し）【いとしい・かわいい】

【用例】 翁をいとほしく、かなしとおぼしつることも失せぬ（翁を大切だ、いとしいとお思ひになることもなくなった）

（竹取物語）

（悲し・哀し）【なげかわしい・かわいそうだ】

【用例】 限りとて別るる道のかなしきにかまほしきは命なりけり（これを限りとしてあなたと別れて行くのはなげかわしいが生きたいと思う命であることよ）

（源氏物語）

□□
⑭

なかなか【中途半端だ・なまはんかだ】

【用例】 なかなかに苦しきまでも嘆くけふかな（かえって苦しいほど嘆いてゐる今日であることよ）

（和泉式部日記）

□□
⑮

ののしる【声高く言い騒ぐ・やかましくうわ

さをする・威勢がよくなる】

【用例】 御車寄せており給ふ程、「いたう苦しがり給ふ」とてののしる（御車を寄せて下車なさる時、「ひどく苦しんでいらつしやる」と言い騒ぐ）

（源氏物語）

□□
⑯

めでたし【すばらしい・立派である・祝う価値がある】

【用例】 藤の花は、しなひながく、色こく咲きたる、いとめでたし（藤の花は、しなやかに長く、色濃く咲いてゐるのが、とてもすばらしい）

（枕草子）

□□
17

ながむ

(眺む) 【物思いに沈んでぼんやりと見やる・

遠くを見渡す】

【用例】 暮れがたき夏の日ぐらしながむればそ

のことになくものぞ悲しき(なかなか暮れな

い夏の日を一日中ぼんやりと物思いにふけつ

ていると、何がというのではないがもの悲し

いことだ)

(伊勢物語)

(詠む) 【声を長く引いて詩歌を吟じる・詩歌

などを作って口ずさむ】

【用例】 「こぼれて匂ふ花桜かな」と詠めけれ

ば(「咲きこぼれて美しい桜の花よ」と口ず

さんだところ)

(今昔物語集)

□□
18

なほ 【やはり・さらに・なんととっても】

【用例】 和歌こそ、なほをかしきものなれ(和

歌こそ、なんととっても趣深いものである)

(徒然草)

□□
19

やうやう 【だんだんと・しだいに】

【用例】 花もやうやうけしきだつほどこそあれ

(桜もだんだんと咲きそうになる頃である

が)

(徒然草)

□□
20

やがて 【そのまま・すぐに】

【用例】 夕月夜ゆづくよのをかしきほどに、出だし立て

させ給ひて、やがて眺めおはします(夕月夜

の美しい頃に、「使者を」出發させなさって、

そのまま物思いに沈んでぼんやりと見てい

らっしゃいます)

(源氏物語)

□□
21

ゆかし 【心がひきつけられる・なつかしい】

【用例】 そもそも、参りたる人ごとに山へ登りし

は、何事がありけん、ゆかしかりしかど(そ

もそも、参詣する人が皆山へ登るのは、何事

かあるのだろうか、気になったけれど)

(徒然草)

□
□
22

をかし【こっけいだ・趣がある・優れている】

【用例】 雁かりなどのつらねたるが、いとちひさく

みゆるはいとをかし（雁などの連なっている

様子が、とても小さく見えるのはとても趣が

ある）

（枕草子）

□
□
23

否定の「え」【下に打ち消しまたは反語の言

い方を伴って）くすることが

できない・十分にくしない】

【用例】 人のそしりをもえはばからせ給はず

（他人の非難に気兼ねすることもおできにな

らず）

（源氏物語）

□
□
24

なくそ【くするな（禁止の意を表す）】

【用例】 昔思ふ草のいほりの夜の雨に涙な添へ

そ山ほととぎす（過去を悲しく思い出して

る粗末な小屋での夜の雨に涙を添えてくれる

な、ほととぎすよ）

（新古今和歌集）